

公表

事業所における自己評価総括表(児発)

○事業所名	障害児通所支援事業所ちゅらハウス（児発・放デイ多機能型）		
○保護者評価実施期間	2026年2月3日		～ 2026年3月19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	2026年3月1日		～ 2026年3月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月28日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	動作法は心と体の発達をバランス良く支えることができ、体の動きや力の入れ方、抜き方を通して、自分の状態に気付き、コントロールする力を育てられることが強みです。	毎回訓練の様子を記録に取り、講師の先生と成長等を共有しながら、目標達成に向けて連携しながら支援を行っています。	年数回は、本島よりスーパーバイザーの先生をお招きし、助言をいただきながら訓練会を開催しています。
2	保育所や子ども園への送迎を行い、保育所等の先生方と情報を共有しながら、より良い支援に繋がるように密に連携を取っています。	保育所や子ども園の先生方が動作法に興味を持ち、見学に来て下さる事が多く、ちゅらハウスでの子ども様子や動作法の取り組みの様子等を実際に見てもらおう事で、支援の統一性が図れる様になりました。	情報交換を大切にしながら、必要があれば担当者会議等を行い、利用児にとってより良い支援が提供できるような体制作りを整えています。
3	事業所での様子や、訓練の様子などを保護者様へ詳細に伝える（連絡帳やライン等）事で、安心して利用できるような配慮を行っています。	動作法の様子を動画や写真、SNS等を通して、保護者に伝えながら、一緒に成長を確認できるように工夫しています。	希望があれば見学等も受け入れ、保護者がいつでも訓練の様子を確認できるようにしたり、疑問や悩み等にも真摯に対応できるようにしています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用児の通う保育所や子ども園との交流等が出来ていない。	午前中という時間内に、動作法をしながら保育所等と交流の時間を調整することが難しいため	保育所や子ども園のイベントや保育参観等を通して、利用児の保育所等での様子を知る機会等を作っていきたい。
2			
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果（児発）

事業所名 障害児通所支援事業所 ちゅらハウス（児発・放デイ多機能型）

2026 年 3 月 31

公表日 日

利用児童数

4人

回収数

4人

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1	4						
	2	3			1		動作法専門SVの訓練を個別で行い、職員は送迎や記録、支援などを行っている。保護者への説明不足もあると思うので、面談時に再度詳細の説明を行う。	
	3	3			1		事業所の構造上のバリアフリーにおいては、現段階での改修は厳しいので、対象児には十分な配慮を行い職員で対応を行います。	
	4	3			1		個別面談などで、丁寧な説明を行うようにしていく。	
適切な 支援 の 提供	5	4						
	6	4						
	7	4						
	8	4						
	9	4						
	10	3	1				動作法訓練の固定したプログラム内容になっていますが、導入や訓練終了後は、児が楽しめるような関わりを行うなどの工夫を行うようにしています。	
	11	3			1		対象児が利用する時間帯は、個別での取り組みになるので、長期休暇時を利用し放デイや学童クラブとの交流を図るようにしていきます。	
保護 者 へ の 説 明 等	12	4						
	13	4						
	14	1	1	1	1		昨年度より取り組みを行っているが、周知方法について改善が必要。全保護者に行き届く周知方法を行っていきます。又、開催時間帯を保護者の皆様に参加しやすい時間帯への変更も検討していきたい。	
	15	4						
	16	4						
	17	4						
	18	2				2		今年度は、保護者を含めご家族参加型イベントの開催を学期ごと行いました。お仕事の関係で、参加できない保護者の皆様もあり、全参加は厳しいですが参加しやすい内容の検討も行いながら、周知方法の工夫も行いたい。
	19	4						
20	4							
21	4							

	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	4					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	3	1				保護者様への周知方法についての改善が必要。毎回面談時等でも説明を行って、訓練様子などの情報発信も行ってはいますが、周知できていないのが毎年の課題です。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	2			2		避難訓練計画に基づいて毎月行っていますが（午後）、児童発達支援に関しては、個別対応なので幼児一緒の訓練は行っていません。非常災害等が発生した際の対応は、職員で確認を行い共有しています。保護者の皆様への周知方法や内容も面談等を通して詳しく伝えていくようにします。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	4					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	4					
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	4					
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	4					
	29	事業所の支援に満足していますか。	4					

公表

事業所における自己評価結果（児発）

事業所名		障害児通所支援事業所 ちゅらハウス（児発・放デイ多機能型）			公表日	2026 年 3 月 31 日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		落ち着いて、訓練が出来るように静かな環境設定で行っています。	訓練スペースは、部屋の玩具や、置物で気が散らないように本児の視界から興味あるものを取り除き、集中して取り組めるような配慮を行う。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		専門講師による訓練を行っているので、記録や送迎、その他対応等で、配置は行っています。	送迎体制を、児に応じて複数人配置して行う。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	2	3	障がいの特性に応じて、対応を行っています。支援が午前中で、利用学童児がいないため、1階で訓練を行うようにしています（長期休暇時等以外）	2階部分が、専用ルームになっているので建物自体がバリアフリーではありません。階段の手すりや、配慮が必要な児に対しては職員が対応を行い支援来ています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		落ち着いて過ごせるような空間設定を行っています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		環境設定には十分な配慮で取り組んでいます。	基本個別対応なので、集中して訓練が出来る様に環境設定には気を付けています。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5		毎回の振り返りを行い、全職員支援内容や方法などの共有が出来ている。支援計画についても全職員が意見を出し合い行っています。	午後から出勤の職員への伝達を、振り返りで伝えていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		全職員で共有を行い、改善に努めています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		毎日の支援振り返りや、ミーティング、職員会議などを通して、業務改善につなげています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	1		保護者のみの評価になってしまっています。第三者委員へは、結果報告のみになっている
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		研修計画を立て、月1回の職場内研修と、外部研修への参加を行い資質向上に努めています。	研修委員会の機能の確立をしっかりと行い、計画していた研修が出来ないときの対応や、代替の研修を行い資質向上を図るようにしている
適切な支援の	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		ホームページでの公表と、保護者様への周知も行いました。	児童に合った計画とプログラムになっているか、常に見直しを行いながら取り組む。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5		全職員、専門講師、相談支援員、保護者様との話し合いやアセスメントで、個々に応じた計画を作成しています。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		全職員での会議を行い、共通理解を行い取り組んでいます。	全職員が意見を出せるような雰囲気づくりにも気を付けるようにしていく。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		全職員把握の上、共有を行ったうえで支援を行っています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		動作法訓練を通しての支援内容を設定し支援を行っています。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	1	全職員で分担し、プログラムの担当を決め、担当が立案した内容を、全職員で確認していく。	担当職員が立案し、それを全職員で確認し、見直しを行い実行しています。

提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3	2		プログラムを曜日で固定しています。(外部専門講師による訓練)。訓練だけではなく、前後で楽しい事も組み入れて行うようにしていきます。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	3	2		個別支援が主になっているので、長期休暇等の隙間時間での関わりを行うようにしている。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		ミーティングでの確認は、全職員参加のもと行っています。	全職員が揃う、支援前に全員参加の基行う。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		支援終了後は、正規職員のみ行き、翌日に全職員での振り返り共有を行う。全職員が参加して行う事で、いい支援にもつながるので、必ず全職員で行う事の徹底を図る。	勤務体制で、支援終了後の振り返りは全職員で行う事が厳しいので、翌日全職員がそろった中で、振り返りを行っています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		記録の書き方は、年度初めに全職員での勉強会を行い共有を図っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		基本的には、6か月に1回の見直しを行います。が、児の状態に合わせ見直しを行っています。	ご家族、子ども園職員、訓練講師との情報共有を行いながら、幼児の状況に合わせ、常に見直しを行いながら支援計画の見直しを行うようにしていく。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		管理者等が参加し、後日全職員への内容報告を行い、共有を図っています。	
	25	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1	自立支援協議会への参加などを行い、連携を取っています。	職員への伝達方法についての工夫が必要。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	2	併行利用児に関しての情報共有は、都度都度行っています。連携を図りながら、対応していく。	連携を図りながら、支援の統一性を図りたい。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	2	相談支援員を通して、連携を図りながら情報共有を図り行っていく。	
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	2	3		石垣市には、児童発達支援センターがないが、研修等には参加し助言を受ける事はあります。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	4		事業所としてはないが、利用児のほとんどがこども園や保育所との併行利用なので、そこで出来ていると思います。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5			母子通園の方に関しては、都度都度話し合っています。母子分離の方に関しては、ラインや電話等に対応し、訓練の状況などに関しては、動画で様子の共有を行っています。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	1	昨年度より取り入れ開催していて、呼びかけは行っていますが今年度は希望者なしでした。次年度も継続して行っています。	保護者様が参加しやすい時間帯や曜日の設定も考慮し、次年度へ向け計画を行いたい。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		面談時に個別で取り組んでいます。		
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		両者のニーズを確認し、対応しています。	児童の意思も尊重しながら作成を行う。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5		個別面談にて説明を行い、同意を得ています。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		保護者様との連携を図り、話やすい雰囲気気を付けながら、傾聴の姿勢で臨む。	保護者様との信頼関係を大切に行う。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	1	保護者会や親子参加型行事を取り入れ行う。今年度は、4回開催を行いました。又、親の会開催のお知らせも公式ラインで一斉送信を行い周知しています。	保護者同士の繋がりが図られるように、支援を行う。次年度は、参加しやすいような配慮を行いながら計画を立てたい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		お便り等で、配信を行う。	話しやすい雰囲気作りに気を付けながら、体制を整える。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		月1回の通信、ホームページでの掲載、ライン等での情報発信を行っています。	ブログからSNSに切り替え配信を行い、支援の様子が見られるような対応を整えています。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		事前に同意を得て、情報発信等を行っています。	年度初めには、全職員対象で研修を行い、常に確認と共有を図りながら気を付けていく。保護者様の同意書を必須として、支援を行う。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5		今年度は、地域の方へ協力いただきながら、ハロウィン仮装行列を開催しました。又秋祭りでは、大川公民館での開催で地域の方も参加し行うことが出来たのは良かったです。	地域との交流を図りながら、地域の中に入る事も積極的に行いたい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		オリエンテーションや、個別面談にて説明を行っています（しおりも配布）。訓練は、年間計画を作成し、月1回それぞれの災害を想定し、訓練を行っています。	救急法講習は、毎年全職員受講するようにしていく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4	1	今年度は、BCP計画の策定も行い毎月の訓練も計画を立て実施できました。	訓練後の反省を全職員で行い、見直しを行いながら改善していく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		入所時には、面談を行い必ず確認を行っています。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	1		現段階、対象児はいませんが研修は行っています。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		研修受講や、安全計画の確認を全職員で行う。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5			年度初めの説明と、書類にて提出をして頂くようにしていく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		ミーティングで共有を図り、再発防止についての取り組みを全職員で行う。	全職員での共有を図る。年度末には、年間の振り返りを行い、次年度に向け対応を行っている。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		職場内研修は、全職員必須で受講している。外部研修に関しても、積極的に受講している。	全職員研修報告書も必須とし、意識付けを行う。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5		職員研修で内容確認を行う。今年度は、対象児なし。		